

## 試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	研究
課題名：サツマイモつる割病の簡易検定法の開発			
〔要約〕サツマイモつる割病の簡易検定法は、感受性品種の利用、苗の傷処理、高地温管理によって苗の発病を促し、4週間後の発病状況から土壌汚染程度を評価するものである。			
キーワード <sup>1)</sup> サツマイモ、つる割病、簡易検定法			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・北総園芸研究所・畑作園芸研究室	
	協力機関	農林総合研究センター・生産環境部・病理昆虫研究室、印旛農林振興センター、香取農林振興センター	
実施期間	2006年度～2008年度		

### 〔目的及び背景〕

サツマイモつる割病は、*Fusarium oxysporum* f. sp. *batatas* による土壌伝染性の病害である。近年、現地ではサツマイモ苗を増殖するハウス内育苗床において、つる割病に中程度の抵抗性を持つ「ベニアズマ」の発病事例が多くみられるようになった。この要因として、育苗床は連年使用されることが多く、発病適温（30℃）に近い高地温で管理されているため、土壌中の菌密度が高まっていることが考えられる。そこで、本病菌による土壌の汚染程度を短期間で評価できる簡易検定法を開発する。

### 〔成果内容〕

つる割病の簡易検定法は、検定土壌を詰めた小カップに、感受性品種「ベニコマチ」の傷処理苗（茎基部を縦半分切除した苗）を植付け、カップを発病適温（30℃）に設定した土壌恒温槽に設置し、4週間後の発病程度から土壌汚染程度を評価するものである（図1）。

発病程度は、指数0～5（0：発病なし、1：導管褐変率0～10%、2：同11～30%または茎割れ率0～10%、3：同31～60%または同11～30%、4：同61～100%または同31～60%、5：茎割れ率61～100%または枯死）の6段階に指数化し、次式から発病度を算出する。発病度＝ $[\sum (\text{発病指数} \times \text{株数}) / (5 \times \text{調査株数})] \times 100$

### 〔留意事項〕

- 1 本検定法は、つる割病菌による土壌汚染程度の評価のほかに、土壌消毒による防除効果の判定や品種の抵抗性検定へ応用できる。
- 2 本検定法は、立枯病の簡易検定法を応用して開発した（関連文献3を参照）。

### 〔普及対象地域〕

### 〔行政上の措置〕

[普及状況]

[成果の概要]



図1 つる割病の簡易検定法

[発表及び関連文献]

- 1 平成21年度試験研究成果発表会（野菜部門3）
- 2 サツマイモつる割病に対する土壌汚染程度の簡易検定法の開発と実用性評価、関東病虫研報、54集、2007年
- 3 ウイルスフリー化処理によるサツマイモ立枯病の品種抵抗性の低下、関東病虫研報、53集、2006年

[その他]

緊急技術開発促進事業「カンショの病害等による品質劣化の要因解明と防止技術の確立」（平成18～20年度）